

平成27年度第2回田原市総合教育会議 議事録

1 日時

平成27年11月20日（金） 午後1時～午後2時23分

2 場所

田原市役所 北庁舎3階 300会議室

3 協議事項

- (1) 田原市総合教育大綱（案）について
- (2) 学校再編について
- (3) その他

4 出席者

市長		山下 政良
教育委員会 教育長		花井 隆
教育委員会 教育長職務代理		横田 威
教育委員会 委員		金原 真人
教育委員会 委員		山本 明子
教育委員会 委員		土井 真紀江

5 欠席者

なし

6 会議構成員以外の出席者及び事務局

政策推進部長	中村 匡
教育部長	前田 和宏
教育部教育総務課長	鈴木 努
教育部教育総務課教育企画室長	三竹 雅雄
政策推進部政策推進課主幹	矢口 美英
教育部教育総務課教育企画室主任	清水 綾子

7 傍聴人

8名、うち記者1名

8 協議の経過

(政策推進部長)

時間となりましたので、只今から第2回田原市総合教育会議を始めさせていただきます。
それでは始めに山下市長からご挨拶を申し上げます。

(市長)

第2回目の総合教育会議を開催させていただきありがとうございます、最近あったニュースの中からいくつかお話をさせていただきたいと思います。

今現在、市では予算編成を行っております。予算編成段階ということであまり細かなことは言えませんが、職員のやる気が見えて感じます。これは何かと申しますと、予算要求額がかなり多いということでありまして、予算要求額が多いということは、もちろん必要だからということもありますが、言い換えればそれだけの仕事をしたいということ

ありますので、私はいい傾向だと思っております。もちろん査定する側は大変ですけれども、そのようなことを感じております。

また、先だって11月11日に田原東部校区地域懇談会に行つてまいりました。学校問題にも触れるという話も当初あったのですが、その話はほとんど出なかつたと記憶しております。地域の中で高齢者が増えてしまつていて、地域の世帯も減つてしまうという危機感の話が多かつたのですが、田原市の場合、現在の高齢化率が25%と既に超高齢化社会に入つております。そのような段階ですので、このような話も出てくるのかなと思つています。

明るいニュースとしましては、先だつての中部北陸実業団駅伝でトヨタ自動車優勝いたしまして、ニューイヤー駅伝も非常に楽しみであります。12月5日には市町村対抗駅伝、その翌日の6日には芦ヶ池周辺での田原リレーマラソンも開催されます。これらもスポーツという分野で教育に関わつてくるのでけれども、これからも色々と頑張つていかないといけないと思つております。

本日は、総合教育大綱や学校再編といった事項について協議を予定しておりますので、よろしくお願ひいたします。

(政策推進部長)

それでは早速協議事項に入らせていただきます。田原市総合教育会議設置要綱第4条に基づきまして本会議の議長は市長が務めることになっております。市長よろしくお願ひします。

(市長)

それでは、「3 協議事項」に入らせていただきます。協議事項(1)田原市総合教育大綱(案)について、事務局から説明をお願いします。

(教育部長から協議事項(1)について説明)

(市長)

只今、事務局から説明がありました総合教育大綱(案)に対しまして、ご意見・ご質問がございましたらどなたでも結構ですのでお願ひしたいと思つています。

(教育長)

午前中に開催した教育委員会定例会でも大綱案について協議をしたのですが、横田委員から「③ ふるさとに誇りをもって世界に羽ばたく人を育てます」の説明文の文体について意見をいただきました。もう一度丁寧に読み直しますと、文体を含めて流れの中で、「目指します。」の前の文章に大切だと考えることが書かれております。代案として「他の人々がそれぞれの『ふるさと』を愛する気持ちを高めていくことが大切です。」としてはどうかと思つています。横田委員の思いとは異なるかもしれませんが、いかがでしょうか。

(横田委員)

「愛する気持ちも分かるようになるからです。」という言葉が他と比べるとここだけ違つていますので気になりました。

(市長)

分かりました。その他にありますでしょうか。他にもあればどんどん言つていただければと思つています。

(教育長)

その他にも3～4ページの文字が1～2ページと違つている点や、目指す人づくりの①から⑤の読点の使い方、「ともに」と「共に」が混在している点について、横田委員から検討していただきたいとの意見をいただいております。例えば②については、「社会との絆を深め」の後に「、」を付けた方がいいように思ついますし、全て読点を付けた方がいいように思ついます。

(教育部長)

表現はもう少し精査したいと思います。2月に予定しております次回の総合教育会議に最終版を提出いたしまして、そこで決定していただくというスケジュールを考えております。

(金原委員)

目指す人づくりの③の「ふるさとに誇りをもって」についてですが、どのようなものに対して誇りを持つのかももう少し考えたいと思います。①の「ふるさとを愛し」は皆さん愛していると思いますが、何に対して誇りを持つのか皆さんの意見を聞きたいと思います。

(教育長)

田原市全体として持っている良さ、すばらしさ、全国に誇れること、また、個々の地域が持っている良さ、すばらしさ、全国に誇れることをもう少し具体化できるといいと思います。

小学校では、学芸会の中でふるさと劇あるいは伝統劇といったものをやっていますが、この地域でしかない、この学校でしかないことを把握することも大事ですし、市全体のこととして、農業、商工業などで全国に打って出られるような力を持っていることを知らない子供達もいますので、大人も含めて地域住民皆がそれぞれの地域の生産物や文化といった色々なものを知って、誇りが持てるようになればいいと思います。

(市長)

何に対して誇りを持つか個別に書かなくても、③は「ふるさとに誇りをもって」といった表現でいいということですね。

(教育長)

4ページの説明文の中に入れてはどうかと思っています。

(市長)

どういったものに誇りを持つかということを事務局で入れてもらうということをお願いします。

(教育部長)

分かりました。

(横田委員)

今の件についての私の考えですが、教育部のそれぞれの課が行っていること自体がふるさと教育だと思っています。学校教育ではふるさと学習をやっていますし、文化財でも図書館でもふるさとに関する展示や企画展など色々なことを行っています。ただそれを市民の方々にアピールする場があまりないのではないかと思います。やっていることはやっていると思うのですが、市民の方々は意外と知りませんので、各課で施策を実施する際にもう少し情報発信に力を入れていただければいいのではないかと思います。

(市長)

確かに大事なことだと思います。文言としてはいかがでしょうか。言葉としては追加しなくてもいいでしょうか。

(横田委員)

はい。

(教育長)

目指す人づくりの⑤に「スポーツや芸術」とありますが、文化という言葉は入っていません。それを入れるかどうかですが、芸術も文化の一つとして捉えられますので「文化に親しむ」として見た場合、やはり違和感があり、どうしたらいいか迷っているところです。決して抜けているということではありません。

(市長)

文化というものを狭義に捉えるか広義に捉えるかの違いかと思います。全てが文化だと言えればわざわざ入れなくてもいいと思いますし、体を動かすスポーツに対応する言葉として狭義に捉えるのであれば入れるべきだと思います。「3 重視する考え方」の所にも文化という言葉を使っていますが、それと同じ考え方をするのであれば、どこかに入れないといけない気がします。

(横田委員)

「スポーツや文化芸術に親しみ」という選択肢はないでしょうか。

(山本委員)

芸術は文化の中に入ってしまう。

(横田委員)

目指す人づくりの①では、「歴史・伝統文化」という使い方をしてしています。スポーツや芸術も狭義に捉えるのであれば「スポーツ・芸術文化」ということになりますし、広義に捉えれば今のままでいいのかなと思います。

(市長)

文化という言葉の捉え方次第だと思いますので、一度整理していただきたいと思います。その他に何かありますでしょうか。

(山本委員)

同じ③ですが、ここは国際交流的な考え方を身につけるということでしょうか。

(市長)

③の文章を見ますと、「世界に通じる教養を身につけ、多様な価値観をもつ人々と理解し合い」とありますので、当然、国際交流や国際理解という点が含まれていると思います。

(山本委員)

③の文章を読むとそうですよね。ただ「世界に羽ばたく」ですよね。

(市長)

そのように捉えればいいのではないのでしょうか。

(山本委員)

どのような人に育てたいのかといった一つの柱の中で、ふるさと愛、社会に貢献、世界にはばたく、夢を持つ、スポーツや芸術に親しむといったことを挙げています。そうするとやはりどこかに文化という言葉がほしいと思います。①に入れてしまうとちょっとおかしい気がしますけれども、狭義の文化だとすると①ですね。

(教育長)

②と④に「社会」という言葉があります。そうしますと、③は「社会に羽ばたく」よりもやはり「世界に羽ばたく」の方が方向性もあっていいと思います。社会と世界がどう違うのかということはあると思いますが、ここは世界で活躍できるという意味合いを持たせて、もちろんその過程には国際理解もありますし、国際貢献といったこともあります。

(山本委員)

ただ、田原から出て行ってしまうことになってしまいますね。

(教育長)

ぜひ世界に羽ばたいて、またブーメランのように帰って来ていただきたいと思います。若い時は、田原で働くのもいいのですが世界で働きながらも、最終的には田原に貢献できるような人になってもらえればと思います。

(山本委員)

②と④はどちらも社会貢献ですよ。

(横田委員)

今の話題と全く違うことなのですけれども、今気が付いたことで、「ライフステージごとの目標」の所で、家庭教育と学校教育は子供、生涯学習は子供から大人と分けています。生涯学習からすると産まれてから死ぬまでの学習が生涯学習で、家庭教育、学校教育も生涯学習です。社会教育があつて、生涯学習があつて、その中に学校教育や家庭教育があります。左欄に書かれている家庭教育、学校教育、生涯学習という言葉はなくした方がいいのかなと思いました。

(山本委員)

ターゲットを子どもだけにしていくのか、子どもから大人まで含めて全部とするのかという点はいいでしょうか。

(市長)

今はどのような分け方をしていますか。よく分かりませんが、子どもは①④が該当し、子どもから大人は②③⑤が該当しますという分け方でしょうか。

(教育部長)

子どもは①④を中心にとということです。

(市長)

一番左側の欄はなくていいかもしれないですね。

(横田委員)

「子ども」とか「子ども～大人」という言葉を取った方がよくないでしょうか。家庭教育や学校教育では①④を中心にしてやっていきます、生涯学習では②③⑤を中心にしていきます。でも生涯学習はこれら全部ですね。

(教育長)

2つの間の線はなかなか引きづらい。

(市長)

皆対象なのでこのように分離しなくてもいいような気もしますね。

(教育長)

別に分ける必要もないでしょう。

(市長)

ということで分けないということにします。

(教育長)

こうした総合教育会議での議論は大事ですし、大綱はこの会議の意見を尊重して策定されますのでよろしくお願ひしたいと思ひます。

(横田委員)

午前中の会議でも話が出たのですけれども、5ページの「重視する考え方」、この意味が分かりにくい。「基本理念や目指す人づくりを実現するために取り組む施策」が書かれていませんで、重視する考え方がこれら5つでいいのかどうか分からず、自分としては非常にクエスチョンマークです。

(教育長)

現在の教育振興基本計画の「重視する考え方」を今回修正しているものですが、「2 読書

と実体験を重視する」の「重視する」という言葉がだぶっていますので、「尊重する」といったような言葉に直した方がいいと思います。

学校教育振興計画ですとか生涯学習推進計画を今後策定していきますので、その際にこの考え方を念頭に置いて策定するということだと思っています。

良い代案があれば出していただけると有難いです。午前中の会議で教育部長から「文化もあえてここに入れてみました」との話がありましたが、ここについても良い案があれば出していただければと思います。

(市長)

これは考え方ということですよ、施策ということではなく。

(教育部長)

はい。こういったことをイメージしながら個別計画を策定していきますということです。

(横田委員)

そのように表現していただければいいのではないかと思います、そのまま文章にすると具体的すぎていけないのでしょうか。

(教育部長)

説明に加えます。

(横田委員)

「重視する考え方」の下に8ページにある教育分野に関する個別計画等を入れておくと、こうした考え方でこのような施策が出来ているということが分かりやすいと思います。そうすると2ページの「4 策定に当たっての考え方」の(1)から(3)に書かれていることが全て第2章の中で網羅されてきます。(2)については3ページから5ページに書かれていますし、(3)については策定済みのもの、今後改定するものが示されています。(1)に書かれている「いじめや引きこもり、子育て」のうち、子育てについては健康福祉部局でつくられていますし、いじめについては市のいじめ防止方針もあり、そういったものも含まれてきますので、2ページの(1)から(3)に書かれていることがほぼ網羅されてくると思います。

(市長)

大きな考え方をまとめる大綱ですので、あまり細かくなくてもいいと思います。あまり細かく書き込むと個別計画の内容に入ってしまうかと思っていますので。一つ一つ文章を練っていくと色々あるかと思っています。基本計画、大綱でありますので大枠で見ていただくのがいいかと思っています。他によろしいでしょうか。

それでは、本日出た意見を反映して手直しをして、第3回総合教育会議に出していただきたいと思っています。皆さんよろしいでしょうか。

それでは、次に協議事項(2)学校再編について事務局から説明をお願いします。

(教育企画室長から協議事項(2)について説明)

(市長)

只今の事務局からの説明についてご意見、ご質問等がありましたらお願いいたします。

(金原委員)

午前中の会議で聞き忘れたのですけれども、泉中学校再編検討委員会で3班に分かれて行った意見交換で出された意見に「福江中と赤羽根中とは、見学会の対応が違った」、「赤羽根中、福江中の噂を気にしている」とあります。これは例えばどういうことでしょうか。

(教育部長)

まず見学会の対応が違ったことに関してですけれども、福江中は、学校公開日に泉校区、伊良湖岬校区の方に来ていただきましたので、地元の福江小、亀山小、清田小等の校区の方も自由に来ていただける日の開催でした。一方、赤羽根中は、学校公開日の開催ではなかったものですから、来てくれた方を学校側が引率しましたので、その辺の対応が異なったということです。

また、噂に関しては、今はそのようなことはないのですが、昔の荒れていた時代の福江中の噂のことを気にされているということだと思います。

(横田委員)

同じ泉中のことですが、今後の予定として何か決まっていますか。意見を聞いてその後どのような動きをしていくかです。

(教育部長)

実は今、伊良湖岬中の校区の方々からもう一度保護者を中心として学校見学会を開催してもらえないかという話があります。これは、今日の堀切校区、来週の伊良湖校区と和地校区からもそういった意見が出るかと思うのですけれども、そういった意見を聞いた上で12月にもう一度学校見学会を開催しようと思っております。

また、年明け位には、泉校区、伊良湖岬校区の統合検討会を行っていこうと思っております。できれば本年度中に結論が出ればいいな、どうしても出なければ仕方がないのですが、本年度中に結論が出ればと思っております。

(金原委員)

泉中のアンケートで、今年の前半位は赤羽根中という意見が3割位であったと思えますけれども、それが既に半数を超えているということですか。

(教育部長)

2年前に地元が独自にアンケート調査をしております、その時には6割位の方が赤羽根中という意見があったようです。ただ、回収率はそれほど高くなかったようです。

(金原委員)

教育長、泉中は急ぐのですか。

(教育長)

ストレートに来ましたね。今週火曜日に泉中学校校区意見交換会を行った時に、全体での意見交換と4つの少人数グループに分かれた話し合いがありまして、様々な意見がありました。統合には賛成ですが、そのタイミングが難しいなと感じました。また、地域の方はロードマップと言っておりましたが、学校再編のスケジュールがどのような風になっていくかももう少し具体的に見えるといいといったことを含めると、急ぐのは難しいと思います。地域住民の方から急いでやってほしいという声が強ければ急ぐのですが、もう少し慎重にいきたいという感じが強かったので、こういった会を積み重ねることによって煮詰めていただけたらという表現をさせていただきました。地域住民の皆さんからの意見が鍋に入って、そこから最終的にどうするのが見えてくるいいと思います。もう少し時間がかかる気がしますし、泉の場合は、伊良湖岬と比べると統合先をもう少しゆっくり選べるという理由があります。伊良湖岬中が動く時に泉中も一緒に動きたいという意見もありますし、もう少しゆっくりやってはどうかという意見もあって分かれていますので、もう少し実状をしっかりと把握していないと答えは出せないと感じています。

(市長)

泉中については、「赤羽根中あるいは福江中へ統合、平成27年度末までには統合先を（伊良湖岬中と同時期に）決めていく」と書かれているが、伊良湖岬中についてはどこかに書かれていましたか。

(山本委員)

1 ページの 5 行目です。

(教育長)

伊良湖岬中についても平成 27 年度末までになのですが、今日は堀切校区、来週は和地校区、伊良湖校区の意見交換会に出席していきますが、これについてもできれば早く決めてという思いもありますが、これも煮詰まりが弱いと感じますので、もう少し煮詰まるのを見ながらと思っています。校舎建築もあるのですが、今後の意見交換会における意見を含めてしっかりと情報、意見をキャッチする中で、場面によっては 28 年度にずれ込むということも、我々が強引にここで決めますというのではなくて、地域の皆さんの意見で決まらなかったらもう少し粘り強くやるというように少しシフトしていこうということです。

(市長)

私はこの段階で決めるというのは少し無理があると思うのですけれども。そこまでの気持ちに地域がなっているかどうか、まだいろんな意見を出している段階でまだどうするか決めるににくい段階だと思うのですけれども。どんなことを決めるにしても絶対に賛成、反対はあるのですけれども、意見を出し尽くしてもらうことが必要ではないかと思います。例えば通学の仕方もありますし、どちらに行くかという問題は非常に難しいのではないかと思います。

(教育長)

先日の泉校区意見交換会でも私からは、先程言いましたように、よく意見を聞いて煮詰めていきたいので沢山出してくださいと言いまして、沢山の意見が出ましたので、整理してある程度すんなり答えが見えてくるといいのですけれども、これについてはもう少し整理する時間も必要ですし、更なる意見を聞く中で教育委員会案を示し、住民の方にまた意見を聞くということで、時間がかかるという感じを持っております。時間をかけて、特に泉地区に関しては、野田中も今度動きますし、伊良湖岬中の再編も視野に入れていけば何とかその後でもいけるという見通しは持っております。ただ、伊良湖岬中と一緒にいけないといじめがあるとか、子供達が不安になるという部分については、何とかこちらで解決できるようにじっくり考えて安心して行けるというスタイルを作りたいと思いますので、特に泉については急がなくてもいいのではないかと考えております。

(市長)

通学の方法についても色々意見があるだろうし、伊良湖岬中が福江中に行く、あるいは赤羽根中に行く、泉中が赤羽根中に行く、あるいは福江中に行く、あるいは両方が福江中に行くといった色々なパターンがあります。

(教育長)

昨今の頃、たたき台ということではありますけれども全体計画を示しましたけれども、地域の方は、たたき台ではなくほぼ決定ではないかと理解している人もかなりいますので、たたき台を基に、市長が言われるように議論を尽くす中で、たたき台の予定通りにはいかないこともあり、しっかりと地域の人々の声を聞きながらベストタイミングを図りながらやっていくことが大事かと半年以上これまで携わってきた中で感じているのですが、出来れば教育委員の皆さんにも私見で結構ですので、ご意見をいただければどうでしょうか。

(市長)

いつかは決めないといけないのですけれども、ただ今の段階でいいのかどうかということでも心配です。野田中が今度の 4 月から田原中に行くことに関して、その動きを見てという意見もあったかと思えます。それが参考になるかどうか自分にもよく分かりませんが。

(横田委員)

伊良湖岬小学校の統合の関係で統合準備委員会など色々な会議ができましたが、そこで決

まったことがなかなか地域の住民に浸透していなかったという反省があります。会議に出ている関係者は良く知っているのですけれども、地域に情報が降りていなかったということで、さあ統合しようかという段階になって色々な意見が出てきました。平成 27 年度末までにやりますよと限定してしまうと、そういった意見がまたどんどん出てきてしまいます。統合準備委員会の委員さんの意見であって、市長が言われたように一般の人達の意見を聞いていませんので、恐らくまた沢山の意見が出てくると思います。伊良湖岬小の統合準備委員会を傍聴させていただいて感じたことは、そこで決まったことを地域の皆さんに伝えていかないと、お便りも色々出しているのですけれども、なかなか読んでくれませんので、学校の方から情報を流していただくとか、何らか手立てを打たないとなかなか浸透していかないということがあるので、単年度の委員さんですので、それでいいというものでもないということを感じました。

もう一つ心配しているのは、伊良湖岬中と泉中は一生懸命ですけれども、受ける側の福江中や赤羽根中は「こっちに来ようだよ」とか噂だけを聞いているんですね。ある程度方向性が出たら受ける側にもきちんと説明をしていかないとトラブルの原因になると思いますので、その辺りも丁寧にやっていただきたいと思います。

(教育部長)

12月7日に赤羽根中校区、12月9日に福江中校区の自治会、PTAの方々を全員集めて、今の進捗状況を報告しようと思っています。

(市長)

野田中も同じように田原中校区に説明していきますか。

(教育部長)

はい。既に話をしております。

(市長)

決まる前に説明したということですか。

(教育部長)

はい。ただ、説明が足らなかったという意見はありました。

(市長)

田原東部校区地域懇談会では、東部小学校に六連小学校が来るのではないかということを考えて、受け入れ側にも説明がありますよねというような質問事項が出されていましたが、結果的に質問はなかったのですけれども、それは受け入れ側にも当然話をしないと後で揉めることになるのだらうと思います。

(山本委員)

六連小の話はまだ決まっていないですよ。

(教育部長)

今、六連は動きがありません。

(山本委員)

そうですね。六連は止まってしまっていますので。

(横田委員)

六連で小学校の統廃合の話をするとう怒られるそうです。

(市長)

何れにしても統合される側、受け入れる側両方にしっかり話をして、そこで問題点を見つけるしかないと思います。例えば通学の方法ですが、野田から田原中は遠いのでバスを

使うこととなります。伊良湖岬中の場合は、福江中、赤羽根中どちらに行くにしても 6km を超えますのでバスを使うこととなります。

(教育長)

六連小の場合は、学校再編計画で平成 31 年度までに再編を考えるというグループに入っています。本年度の議会でも地元の意見を聞きながらと答弁しておりますし、平成 31 年度という数字にあまりもたれなく、話し合いを進めていく中でタイミングが取ればまた動くし、ご意見を伺いながら進めてまいりますので、東部校区からは「いつ来るのですか」という話もあったようですが、「六連に動きがないということであればそれで結構」ですということでした。

(市長)

私があらかじめ話を聞いた時には、情報がなかったので話をしてくれるだろうねということを書いていました。

(山本委員)

噂だけですよね、聞いているのは。

(市長)

聞いた時にはそう言っていたのですけれども、11 月 11 日に行ったらその質問は出なかったということでした。

(金原委員)

泉中にしても伊良湖岬中にしても中学校単位でどちらかに移るのはまず無理ではないでしょうか。地域で近い方の学校にという考え方はないのですか。

(教育長)

和地と伊良湖、堀切が揃って一緒に行くのは難しいのではないかと、出来れば揃って行ってもらった方がいいのですけれども、そこが難しいところです。

(山本委員)

子供のことを思うと一緒の方がいいのではないのでしょうか。新しい環境に入って、また新しい環境に入ってということになりますので。

(金原委員)

ただ、伊良湖岬中の場合、3つの小学校がありました。伊良湖から赤羽根中となると距離的にも無理があるかと思えます。

(市長)

どちらかと言うと旧小学校単位の方がいいということですね。分けるということではなくて。

(金原委員)

はい。

(山本委員)

そうですか。

(金原委員)

泉中の場合も福江に近い所と赤羽根に近い所とありますので、一つのどこかで線を引いてどちらかを選択ということになります。

(山本委員)

一教育委員としてというよりも住民としての意見になるのですけれども、子供を持ってい

る親としては、この間も伊良湖岬小の堀切の方から聞いたのですけれども、統合した時に子供が新しい環境に入ると非常にピリピリするんですよね。小学校の高学年位から思春期に入って一緒になって、また何年かしたら分かれて違う学校に入っていくというのは、プレッシャーがすごいのではないかと、子供を持つ親からするとそういうことがあるのではないかと気がします。

(市長)

3つの小学校はもう伊良湖岬小に統合したから、また分かれて行くのはどうかということですね。

(山本委員)

はい。それが子供にとっていいかですね。

(市長)

それも一つの言い方ですね。そういった話をよく煮詰めてもらって、意見は意見として色々あるかと思います。

(山本委員)

地域の方々の色々な思いであるとか、自分のふるさと、地域を愛する気持ちが一緒にといいうことに対して色々と思うところがあると思うのですけれども、母親というのはまた違うと思うので、そこはしっかり聞いてもらいたいなと思います。

(市長)

でもその意見が正しいかどうかは分かりませんよ。子供が主役ですから。子供を優先的に考えないと。これはあくまで私の考え方ですけれども。大人の考え方を言っていきますとそうなりますし、それをいけないとは言いませんが、そういう意見もありますから。子供が主役だということを考えていただきたいと思っています。子供が果たしてそう思っているかどうか親は本当のところは分かりません。小学校低学年であれば分かるかもしれませんが、中学校に入っていく年齢ですし。

(山本委員)

確かに難しい年頃ですよ。

(市長)

それも間違いとは言いませんけれども、例えばそういうこともあるので、子供が主役という路線は変えないでほしいと思います。

(教育長)

特に伊良湖岬小は横に校区が広がったので、現在179名の児童がいますが、一つの学校で学ぶようになってこれで半年以上になります。そこからさらにどちらの中学校にといいう時に、保護者を含めて今選ばせるのは酷な感じも受けております。ですので、そういう意味でも、27年度末でここにしますと教育委員会が決めますと書いていますけれども、地元の意見を無視してまで決めるということはありませんので、もう少し意見を伺う時間が必要になってくれば、決定の時期はずれてくると思っています。

一方で新しい伊良湖岬小を建設する計画も進み出していますので、そこら辺の調整についても地域としっかり寄り添ってやっていきたいと考えています。

(市長)

考え方は色々あると思うのですけれども、教育委員会としてもこの時期にやらなければやれないという位のつもりも時には必要ですし、時間をかけてじっくりという考え方も間違いではないし、どこを取るかですけれども、どういう対応を取るのかももう一度教育委員会で話し合っていていただいて、地域性もありますし。難しいことだと思いますけれども、いつかどこ

かで結論を出していかないということについては、私も一緒の考えですけれども、ここまで来たらこうやって決めるというその落とし所を考える必要があると思います。

(教育長)

福江地区の住民、保護者として、土井委員のお考えはいかがですか。

(土井委員)

資料中にも書かれているのですけれども、福江中の噂ということをしごく聞かれて、伊良湖岬の人達に「福江中はどんな様子か、しごく悪いという噂を聞いた」といったことを聞くのですけれども、昔の噂ばかりで、今の私達のお父さん位の世代の人達から私達の世代位までは悪かったと聞いているのですけれども、今現状そういうことはないですし、そういうことを言い出したら他の中学校でも絶対ないとは言いきれないのではないのでしょうか。大きな学校なので目立つだけであって、実際に福江中はそんなにひどいことはないのです、噂ばかりが飛び交って、そのせいで福江中に行きたくないというだけの結論は出してほしくないです。

また、親御さんや子供の意見ということについては、自治会長、地元の役員の意見だけではなく、やはり保護者の意見、子供の意見も大事だと思います。私の知り合いの方で、母親は赤羽根中に行かせたいと言っているのですけれども、子供はやりたい部活がある福江中がいいと言っているといったように意見が多々ありますので、今言われるように、さっと決めるのではなくて全体的に大きく見て、最終的に結果はどちらにしてもトラブルはあると思いますし、色々なことが結果あると思うのですけれども、やってみたらきっと上手くいくこともあると思いますので、最初から消極的に考えず、もう少し色々な意見を聞きながらと思います。一つ言われたこととして、平成 27 年度末までに決めるということについて、今言われたように少し急すぎると思うところもあるのですけれども、実際に聞いた意見ですと、ただらするのなら、既に小学校は統合してやっているのです、もうここで中学も決めてくれた方がいいという保護者の意見もありますので、それは一部の意見かもしれないのですけれども、沢山の意見を聞いてもらって最終的に決めてもらえればいいかなと思います。

(市長)

そういったように色々な意見があるものですからね。ただらと延ばすという意味ではなくて、急にやれば急にやっただけの問題点というものが残ると思うのですよ。ですから意見を聞いた後に決めるというようにやっていかないとと思っています。それがどの時点かということがまだ分かっていませんので、それをどのように煮詰めていくかということを経済委員会の中で話をさせていただくのですけれども、あと 4 か月しかないのに今年度中に決めるのはなかなか難しそうだと思います。私がそう言ってしまっただけいけないのかもしれませんが。

(教育長)

しっかり構えながら色々な意見をよくキャッチして、しっかりと咀嚼しながら全体的なタイミングを見計らいながら、様々にある意見をよく聞きませんと決められませんので、今日から 3 地区の意見交換会に行っただけでも、よく聞いて全体のストライクゾーンを見極めていきたいと思っています。

(市長)

分かりました。学校再編についてはまだ途中の段階ですけれども、平成 27 年度末となっている期限についてはまた教育委員会で話をしてもらって、そこで決まるのであればそれはそれでいいと思うのですけれども、何れにしてもこれから大変だと思いますがぜひお願いしたいと思います。その他、学校再編についてはよろしいでしょうか。

次に、協議話題(4)その他ですが、何かございますか。よろしいですか。

それでは、次回の会議ですが、2月頃を予定しております。ただ、27年度中にもし結論が出るということなら2月開催では遅いので、決める前に総合教育会議を開催した方がいいと

と思いますが。

(教育部長)

また調整します。

(市長)

他によろしいでしょうか。ないようですので、これもちまして第2回田原市教育総合会議を終了させていただきます。どうもありがとうございました。

(閉会 午後2時23分)